

令和2年9月30日発行
公益財団法人
中国四国酪農大学校
電話 (0867) 66 - 3651
FAX (0867) 66 - 3652
E-mail info@rakudai.ac.jp
http://www.rakudai.ac.jp

学 園 だ よ り



巻頭の言葉

校長 山田 義和



近年、毎年のように梅雨時に豪雨災害が起きており、多くの犠牲者がでていますが、避難された方々も猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症対策が重なり心労が増しておられることと思いません。被災された皆様にお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

蒜山は秋の気配が忍び寄っています。今年の夏は例年のようにスカっとした爽やかさが無かったように思いますが、いま全世界を震撼させている新型コロナウイルス感染

症がその原因で、首都圏の感染率が下がったことによる制限緩和の措置を受け、地方にもクラスター感染が発生するなど、予断を許さない状況となっており、感染者が出ていない蒜山も観光産業に大きな影響を受けています。

当大学校でもコロナ禍の影響を受け、第56期生の入学式が2度の延期を余儀なくされ、6月2日に入学生と教員の一部により、全員がマスクを着用し3密を防ぐ対策を講じて実施しました。入学生22名が着用したマスクは、マスクの購入のめどが立たない3月末に地元の有志から寄附されたものであり、地域の皆さんとの絆を強く感じるとともに、皆様のご厚意に込めるためにも感染防止対策を徹底

し、学生が安心して学業に専念できる環境を整えていきます。

3月24日に挙行了した第54期生の卒業式もコロナ感染の最盛期で、卒業生17名と教職員のみのも式典となり、保護者の皆様には残念な結果となりましたが、卒業生の表情は明るく、元気に巣立ってくれました。入学時に抱いた夢の実現に向けて頑張ってくれるものと期待しています。

今年の校外研修ですが、4月は研修先の農家と協議して研修に出向しましたが、5月の研修は中止、6月からの研修は受け入れていただける研修先を見つけて研修にでています。

気になる世界の話題もコロナ一色といった感じで、新治療薬、ワクチンの開発が待たれるところです。

このような情勢の中で、当大学の明るい話題ですが、第一に生乳出荷先であるおみやま酪農業協同組合が実施している乳質改善事業で第一牧

場が3年連続の乳質優秀表彰を受け、第二牧場も昨年とぎれた連続表彰から復活し、アベック受賞となりました。また、第二牧場は蒜山酪農業協同組合からも乳質最優秀表彰を受けています。

第二にホルスタイン種で3頭目のエクセレント牛が誕生し、ジャージー種で本校初の体型審査で90点の牛が誕生しました。

今年、学生が楽しみにしていた第15回全日本ホルスタイン共進会を始め、全ての共進会が中止となりましたが、着々と改良の成果が現れており、モチベーションは高く保っています。

当大学校は、学生、酪農関係業界、消費者等にとつて魅力のある学校づくりをコンセプトに担い手育成に力を入れていますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願ひします。

結びに、学生たちは、厳しい畜産情勢の中、卒業生の皆様の背中を見ながら夢の実現

に向けて頑張っています。新型コロナウイルスの防止対策を講じながらの経営で非常に厳しい環境ではありますが、地域酪農の牽引役として引き続き活躍されることを期待しています。

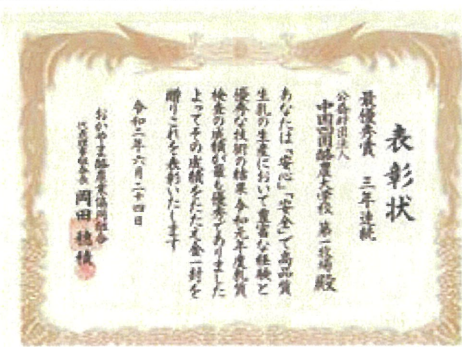


酪大ニュース



○乳質最優秀賞

6月24日に開催されたおみやま酪農業協同組合総会において、第一牧場が令和元年度の乳質最優秀賞を受賞し、平成29年度から3年連続の受賞となりました。日々、搾乳機器の点検や洗浄確認、牛の健康や機械・飼料等における異常の早期発見等に対応するマニュアルを作成し、学生・職員ともに情報共有しながら徹底して実践した成果です。



頂いた報奨金で搾乳タオル用の乾燥機を導入しました。



今年度から中国生乳販連の乳質評価基準が変わり、成分的乳質、衛生的乳質ともに最高級のSクラスを維持できるよう頑張ります。

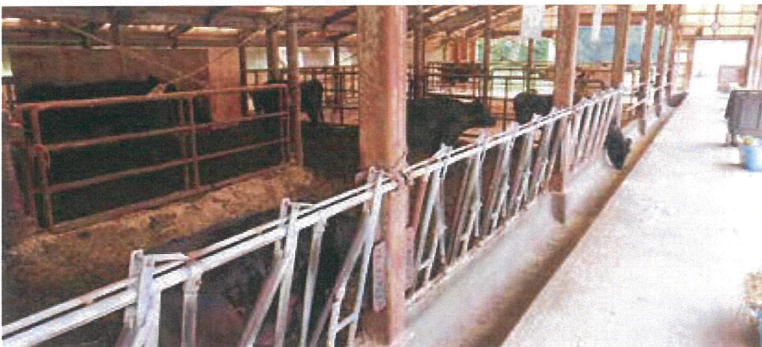
○受精卵移植を活用した和牛生産の拡充

後継牛を取らない乳牛（特にジャージー）からより価値の高い子牛を生産する実践実習の場の充実に向け、和牛受精卵移植の積極的な活用を進めるため、第一牧場では数年にわたり採用用繁殖牛の確保に努めてきたところであり、本校で生産した雌子牛を保留しながら、ようやく8頭の繁殖和牛が揃いました。



○今年度から毎月2〜4頭の和牛子牛生産の達成に向け、

毎月1〜2頭を採卵していき、分娩後の繁殖和牛から3カ月おきに2回採卵したのち受精させるローテーションで、8頭から年間120卵以上の受精卵確保を目標としています。今後は繁殖和牛の資質向上と和牛育成技術の向上に努め、充実した和牛管理の実習環境を整えます。



○哺育牛舎の散水装置設置

近年の温暖化の影響で、蒜山でも異常に暑い夏日が続くようになりました。冬の雪に備え、鉄製の屋根材や壁材を使った牛舎では、牛舎自体に熱をもち、換気しても牛のストレスを軽減できません。



そこで、ホームセンターで購入できる水道用のスプリンクラーを用い、第一牧場哺育牛舎の屋根散水を設置してみました。上水を節約するため、雨どいの利用により散布した

水を回収して再利用することや、スプリングラーの目詰まりを防ぐため、使い古しのソックスフィルターを活用しているところが特徴です。これにより牛舎内温度を換気のみより6度程度低下させることに成功しました。



○バックフラッシュ洗浄の試行

高品質な生乳を生産する技術を学生に伝えるべく、第二牧場では体細胞数9万個/ml以下を目標としていますが、思うような成績が得られなくなってきたことから、搾乳ロボットなどに整備されている「バックフラッシュ（二頭ごとにライナーを消毒する）」機能を手動で行う「マニュアルバックフラッシュ」を作業手順に加えたところ、乳房炎の発生が非常に減少しており、牛群内でミルカー

を介した感染が抑えられているのではないかと考えています。

今後は作業の簡易化を工夫して、実際の現場でも使用しやすい技術として学生に伝えられればと考えています。



○第二牧場保護区の改修

毎年懸案されていた、第二牧場牛舎内の保護区（分娩、治療用区画）での飼養頭数の拡大について、繋ぎ牛舎への改修で対応することにしまし

た。

改修前は大区画5、小区画3で分娩予定牛や分娩牛、治療牛を管理し、頭数が多くなると1区画で2〜3頭管理していました。不調牛の個体管理が難しく飼養可能頭数の拡大が急務となっていました。5つの大区画のうち4区画を各3頭ずつ繋養できるように改造し、12頭繋ぎ+小区画3、大区画1としました。大区画は主にマトニティスペースあるいは繋ぎでは不都



2牧保護区(改修前)

合と思われる個体用にし、小区画も同様の牛を優先しつつ臨機応変に使用したいと考えています。この改修で保護区での飼養可能頭数が増加した結果、より余裕を持った乾乳管理が可能になってきました。

現状では搾乳は1頭ずつ搾乳スペースへ移動させてから行っていますが、近いうちに繋養場所に配管し、その場でバケット搾乳ができるように改修し完了とする予定です。



2牧保護区(改修後)

職員紹介

校長 山田義和
副校長 木曾田 繁
(総務課長兼務)

総務課
係 長 有富英美

教務課

教務課長 関 哲生
(第一牧場長兼務)

主任 高見奈々
技師 山田祐季
臨時職員 法花千恵美
調理技術員 谷口育子
臨時職員 西田 都
臨時職員 池田淑子

第一牧場

主 幹 山田徹夫
助 手 児玉泰平

第二牧場

場 長 芦田草太
主 任 村田崇浩
技 師 三宅 歩
技 師 土井 歩

農場(圃場)

場 長 長綱則之
助 手 野尻晴美

退職のお知らせ

本校4期卒業生で職員として40年間勤務され、「ひぐじい」の愛称で学生・卒業生に慕われている樋口照夫さんが令和2年3月に70歳で退職されました。今回の学園だより作成にあたり、インタビューを通じて酪農大での職員生活を振り返っていただきました。

——長い間、お世話になりました。酪大での勤務は何年になりますか？

昭和55年4月〜平成19年3月と平成22年4月〜令和2年3月。合わせて40年。この春に2回目の卒業式をしたわけだ。

——40年の酪大生活を振り返ってみて、どうですか？

いろいろあったけれど、一言でいうと、【出会いと別れ】。親父が亡くなって酪大に勤めだして、平成2年に女房が亡くなって。転勤先の岡山県畜産研究所で県職員としての卒業式をして、それからまた酪大へ入学（再雇用）して10年間。その間に学生との出会いと別れもたくさんあった

な。まあ、学生は次々全国へ散らばっていったから、共進会の会場を訪ねれば誰かしらいる。学生の結婚式にもたくさん呼んでもらったし、親子2代で酪大に入学してくれた教え子もいるし。亡くなった卒業生や同僚もいるしなあ。だから、【出会いと別れ】。

——樋口さんの在職中に酪大に在籍していた学生は15期〜42期と46期〜55期。約800名の学生との出会いを経験されているのですね。その中で一番印象に残っているエピソードを教えてください！

エピソードねえ……
——思い出がありすぎて絞り込めない様子。卒業生名簿を見ながら「●期生の○○は卒業してから××県の△△牧場に行つて、今は○×にいるはず:」と、卒業生一人一人の進路や近況をビックリするほど把握されていました。卒業生たちからの直接の連絡はもちろん、新聞や雑誌の記事もチェックして、情報収集を欠かさず行っているようです。
なかなかエピソードが出てこないようなので、聞き方を変えましょう。

【忘れられない学生】はいますか？

それは……（卒業生名簿を見ながら）いっぱいいるよ。
【週末の休み明けに家畜運搬車で学校に来た子】
【毎日トラクターに乗らないと気がすまない子】
【一牧羊舎のバドックで寝ていた子たち】

【車の鍵のインロックを繰り返す子（その度に樋口さんがモノサシで開けてあげていたそうです）】

【バイト帰りに車ごと他人様の家の風呂に入った（民家への突入事故）子】

なんていうのもいたなあ。38期あたりの学生とはよく遊びに行っていたし。

——その話は学生からもよく聞きましたね。倉吉プラザボウルでボーリング（樋口さんはマイボール持参）とか、誕生日にケーキを買ってきてくれて、一緒にお祝いしてくれた、とか。

実習だけでなく、学生の学校生活のすべてに深く関わりを持つてくださった面倒見のいい樋口さんが退職されて、学生も職員も寂しがっています。退職後は何をされていますか？

悠々自適の隠居生活？
今は農業。酪大の食堂で使う米を作ってるんじゃないか！

——そう！学生が毎日食堂で食べるお米は、樋口さんに契

約農家としてご協力いただいているんですね。
まだまだ、酪大との縁は切れそうにありません。
樋口さん、今後ともよろしくお願いします!!



卒業生有志から届いた退職祝いの寄せ書きに笑顔の樋口さん

新職員であつた



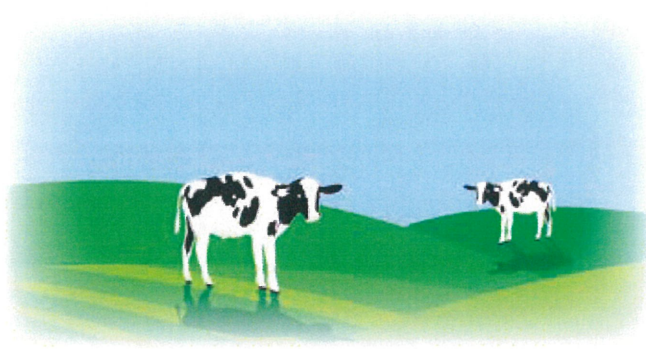
卒業生の皆様お久しぶりです。山田徹夫(やまだてつお)です。

平成4年4月から6年間(第1期)第2牧場で、平成15年4月から5年間(第2期)主に第1牧場で勤務し、その後岡山県へ戻っていました。岡山県を退職し、三度酪農大学校(第3期)に勤務することになりました。

第1期は家族5人で赴任し、学生には子供の面倒をよく見てもらいました。第2期は単身赴任で職員寮酒盛り生活でした。今回も諸般の事情(?)により再びの単身赴任ですが、60歳の体を勞わりな

がら楽しく仕事ができばと思っています。

4月の勤務開始から5か月(執筆時点)が過ぎましたが、牛の管理方法は日進月歩で高度化し、牧場でも様々な新しい技術が取り入れられています。私の体には昔のやり方が染みついており、回りに数歩遅れで何とかついて行っているのが現状ですが、酪農従事者の育成のためこれからも頑張りたいと思っています。よろしくお願ひします。



昨年10月よりお世話になっ

ています野尻晴美(のじりはるみ)です。本校30期卒業生です。卒業後、縁あって蒜山に永住し、酪農とは全く関係のない仕事をしていました。が、昨年の夏に職員を募集しているの聞き、もう一度酪農に携わる仕事をしたい！年齢と体力ギリギリいける!!と思ひ、採用試験にチャレンジして今に至ります。

25年も酪農から離れていましたらすっかり変わっております、学生と共に日々勉強しております。

夢を持って本校に入学し、将来酪農を担って行く学生たちのお手伝いができるように日々精進してまいります。よろしくお願ひいたします。

寄附のお願い

酪農大学校は、酪農業の健全な発展に寄与するため、経営感覚と確かな技術を持った酪農の担い手養成を行うとともに、子供たちや学生、社会人を対象として酪農の役割や意義を理解していただくための普及啓発事業に取り組んでいます。

これらの事業に必要な資金は、主に付属牧場生産物の売払い収入を充てていますが、施設の老朽化の改修が必要になるなど、今後さらに一層の酪農教育の充実を図るためには寄附金が必要となっております。

酪農大学校は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当大学校への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

当大学校の教育活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和元年度には同窓生、在校生から22件265,000円のご寄附が寄せられ、学生の教育・実習活動費用の一部に充てさせていただきました。厚くお礼申し上げます。

寄附は同封の振込用紙でお願ひします。

寄附について、詳しくは酪農大学校ホームページ www.rakudai.ac.jp/にも記載しておりますので参考にしてください。



CHUGOKU SHIKOKU COLLEGE OF DAIRY FARMING

令和3年度

学生募集

■推薦入試

受付期間:令和2年10/1(木)~10/15(木)

試験日:令和2年10/23(金) (岡山会場)
10/26(月) (本校会場)

■一般1次募集

受付期間:令和2年11/9(月)~11/20(金)

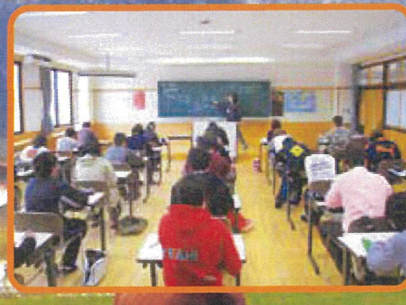
試験日:令和2年12/7(月)

■一般2次募集

受付期間:令和3年2/1(月)~2/18(木)

試験日:令和3年3/2(火)

牛たちとのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間を過ごしてみませんか？



令和2年(2020年)

オープンキャンパス

第1回 7/27(月)~28(火)

第2回 7/30(木)~31(金)

第3回 8/3(月)~4(火)

第4回 8/6(木)~7(金)

学校説明会・
見学会

第1回 7/24(金)

第2回 8/9(日)

公益財団法人

2年間で酪農経営力を
身につけます!

酪農に必要な資格が
取得できます!

奨学金の制度も
あります!

中国四国酪農大学校

SEARCH!

中国四国酪農大学校

GO!

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 TEL (0867) 66-3651 FAX (0867) 66-3652